第二講　演習問題(2)

一　次の文章を読んで、後の問に答えよ。

京兆長安、有張氏。独処一室。【A】有鳩自外入、止於牀。張氏祝曰、「鳩来、為我［ a ］也、飛上承塵。為我［ b ］也、即入我懐。」鳩飛入懐。以手探之、則不知鳩之所在、而得一金鈎。遂宝之。自是子孫漸富、資財万倍。蜀賈至長安、聞之、乃厚賂婢。婢竊鈎与賈。張氏既失鈎、漸漸衰耗。而蜀賈亦数罹窮厄、不為己［ c ］。或告之曰、「【B】天命也、不可力求」。於是賷鈎以反張氏、張氏復昌。

（干宝『捜神記』より。出題の都合上、返り点・送り仮名の一部を省略した）

（注）京兆……地名。　牀……寝台。　承塵……なげし、かもい。　鈎……帯留め。　蜀賈……蜀の地からやって来た商人。

問一　傍線部Ａ「有鳩自外入、止於牀」に「鳩の外より入る有りて、牀に止まる」と読めるように返り点を付せ。（送り仮名は不要）

有鳩自外入、止於牀

問二　空欄 a ・ b を補う最適なことばの組み合わせはどれか。次の中から選べ。

1　a……貧　b……富
2　a……罰　b……賞
3　a……祥　b……厄
4　a……幸　b……災
5　a……禍　b……福

問三　空欄 c を補う最適なことばはどれか。次の中から選べ。

1　害　2　金　3　罰　4　利　5　鈎

問四　傍線部Ｂ「天命也」の解釈として最適なものはどれか。次の中から選べ。

1　それが使命なのだから
2　この命令には逆らうことはできないのだから
3　そういう運命なのだから
4　それが寿命というものだから
5　この命だけは大事にしないといけないのだから

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、問いの都合で返り点・送りがなを省いた部分がある。

有司請事於斉桓公。桓公曰、以告仲父。有司又請。桓公曰、以告仲父。(X)若是者三。在側者曰、一則告仲父、二則告仲父。［Ⅰ］哉為君。桓公曰、吾未得仲父則［Ⅱ］。已得仲父、(Y)曷為其不［Ⅲ］也。故王者労於求人、(1)佚於得賢。舜挙衆賢在位、垂衣裳恭己、(a)無為而天下治。湯・文用伊・呂、成王用周・邵。而刑措不用、兵偃而不動、用衆賢也。桓公用管仲則小也。故至於覇、而不能以王。故孔子曰、小哉管仲之器、(Z)蓋善其遇桓公、(b)惜其不能以王也。至(2)明主則不然、所用大矣。詩曰、済済多士、文王以寧、此之謂也。

（『新序』）

（注）○有司―役人。　○斉桓公―春秋時代斉国の君主。
○仲父―斉の管仲の呼び名。宰相として桓公を補佐した。
○舜―古の帝王の名。　○挙―登用する。　○衣裳―衣装。
○湯・文―殷の湯王と周の文王。
○伊・呂―殷の伊尹（いいん）と周の呂尚。それぞれ湯王・文王を補佐した。
○成王―周の王。　○周・邵―周公と邵公。成王を補佐した。
○刑措不用―刑罰は設けても適用しない。　○善―ほめたたえる。
○詩―『詩経』のこと。　○済済―優れた人物が多くそろっている。

問一　波線部(X)・(Y)・(Z)の送りがなを含めた読み方として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。

(X)　若是
ア　もしこの　　イ　これにしく　　ウ　わかきこの
エ　なんぢのこの　　オ　かくのごとき

(Y)　曷為
ア　なんすれぞ　　イ　なにをかなして　　ウ　いづくにか
エ　いづくんぞ　　オ　いづくのために

(Z)　蓋
ア　もし　　イ　けだし　　ウ　なんぞ
エ　すべからく　　オ　おもへらく

問二　空欄Ⅰ・Ⅱ・Ⅲには、「易」または「難」が入る。組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。

ア　Ⅰ・易　Ⅱ・易　Ⅲ・易
イ　Ⅰ・難　Ⅱ・易　Ⅲ・易
ウ　Ⅰ・易　Ⅱ・難　Ⅲ・易
エ　Ⅰ・難　Ⅱ・易　Ⅲ・難
オ　Ⅰ・易　Ⅱ・難　Ⅲ・難

問三　二重傍線部(1)の解釈として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。

ア　賢人を適切な官につける
イ　賢人を得たことに感謝する
ウ　賢人を得たことに慢心しない
エ　賢人を得られたことに心安らぐ
オ　賢人の信頼を得るように努力する

問四　傍線部(a)の解釈として最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選びなさい。

ア　何一つできないままに
イ　決して偽りを言わずに
ウ　自身も努力を怠らずに
エ　一片の邪念も持たずに
オ　自ら手を下すことなく

問五　傍線部(b)は「其の以て王たらしむる能はざるを惜しむなり」と読む。これに施す返り点として最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選びなさい。

ア　惜㆓其不㆒㆑能㆓以王㆒也
イ　惜㆕其不㆔能㆓以王㆒也
ウ　惜㆘其不㆖㆑能㆓以王㆒也
エ　惜㆜其不㆛能㆚以王㆙也
オ　惜㆔其不㆑能㆓以王㆒也

問六　二重傍線部(2)にふさわしい人物の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選びなさい。

ア　湯・文・伊・呂
イ　桓公・湯・文・孔子
ウ　伊・呂・周・邵・管仲
エ　舜・湯・文・成王
オ　桓公・舜・湯・文

問七　本文の内容に合致するものを、次のア〜キの中から二つ選びなさい。

ア　桓公は管仲を登用すると万事を管仲に任せて政を顧みなくなり、周囲に見放された。
イ　人材は大事だが、人材集めに心を砕くのは、王者のふるまいとしてふさわしくない。
ウ　桓公は管仲を信頼して用いつつ、管仲から多くを学び取ろうと努力を怠らなかった。
エ　舜は帝王としては凡庸だったものの、賢臣たちの尽力によって太平の治を実現した。
オ　管仲は桓公にめぐり会いその信任を得たが、桓公を王者にすることはできなかった。
カ　管仲は能力こそ高かったが人格面に欠点があったため、孔子は彼の器を小と評した。
キ　『詩経』の詩句は、君主はいかに多くの立派な人物を登用するべきかを示している。

三　次の漢文は、前漢の皇帝文帝が臣下に述べたとされる言葉である。これを読んで後の(1)〜(3)の問いに答えよ。

古之治二天下一、1朝有二進善之旌、誹謗之木一、所下以通二治道一而来中諫者上。今法有二誹謗妖言之罪一、2是使衆臣不敢尽情、而上無三由聞二過失一也。将何以来二遠方之賢良一。3其除レ之。

（『漢書』による）

注　古…太古。ここでは堯・舜の時代を指す　　通治道…統治の道を開くこと
来…来させる、招くこと　　妖言…あやしいつくりごとを言いふらすこと
上…天子、皇帝　　将何以…いったいどうやって　　賢良…かしこくて善良な人

(1) 傍線部１「朝ニ有リ二進善之旌、誹謗之木一」の説明として最も適当なものをイ～ニの中から一つ選べ。

イ　遠方の賢良について善事を書きこむ旗と、悪事を報告する板とが、朝廷に掲げてある。
ロ　民衆に対する善い政策を書き入れる旗と、悪事を報告する板とが、朝廷に掲げてある。
ハ　諫言する者について進言を書きこむ旗と、批判を書きこむ板とが、朝廷に掲げてある。
ニ　王朝に対して善政の提言を書きこむ旗と、批判を書きこむ板とが、朝廷に掲げてある。

(2) 傍線部２「是使衆臣不敢尽情」は「これしゆうしんをしてあへてじやうをつくさざらしむ」と訓読する。次の白文に最も適当な返り点を記入せよ。ただし送り仮名は書かないこと。

是 使 衆 臣 不 敢 尽 情

(3) 傍線部３「其レ除ケレ之ヲ」の「之」によって指示されている漢文中の語句として最も適当なものを次のイ～ニの中から一つ選べ。

イ　進善之旌　　　ロ　誹謗之木
ハ　誹謗妖言之罪　ニ　遠方之賢良

第二講

〔模範解答〕

一

問一　有二鳩自レ外入一、止二於牀一

問二　5

問三　4

問四　3

二

問一　(X)　オ　(Y)　ア　(Z)　イ

問二　ウ

問三　エ

問四　オ

問五　ア

問六　エ

問七　オ・キ

三

(1)　ニ

(2)　是使三衆臣不二敢尽一レ情

(3)　ハ

〔現代語訳〕

一

京兆の長安に、張氏がいて、一人で部屋にいた。外から入ってきた鳩がいて、寝台に止まった。張氏が祈って言うことには、「鳩が来たのが、私にとって禍ならば、飛んでかもいに上れ。私にとって幸福ならば、すぐに私の懐に入れ」と。鳩は飛んで懐に入った。手で懐を探ったが、鳩がどこに行ったかわからず、一つの金の帯留めを手に入れた。そこでこれを宝とした。これより子孫は次第に富み、資産は一万倍となる。蜀の地からやって来た商人が長安にきて、これを聞き、そこで（張氏の）下女に多くの金品を送った。下女は帯留めを盗み商人に与えた。張氏は帯留めを失ってしまい、次第に衰えた。そして蜀の商人もまたたびたび困窮して生活に困る事態に陥り、（帯留めを手に入れても）自分の利益にならなかった。ある人が彼に告げて

言うことには、「そういう運命なのだから、（人間が）尽力して求めることはできない」と。そこで（商人が）帯留めを張氏に返すと、張氏は再び繁栄した。

二

役人がすべきことを斉の桓公（＝君主）に求めた。桓公が言うには、「仲父（＝管仲）に言え」と。役人がまた求めた。桓公が言うには、「仲父に言え」と。このようなことが三度あった。側にいた者が言うには、「一にも仲父に言い、二にも仲父に言う。たやすいものだなあ、君主であることは」と。桓公が言うには、「私がまだ仲父を得ない時期には（国を治めるのは）難しかった。もう仲父を得たので、どうしてたやすくないことがあろうか、いや、たやすい」と。だから王は人材を探すのに苦労し、賢人を得られたことに心安らぐ。舜（古の帝王）は多くの賢人と登用して（重要な）地位に就け、（自分は）立派な衣装でつつましく振る舞い、自ら手を下すことなく天下は治まる。湯王（＝殷の王）と文王（＝周の王）は伊尹と呂尚を重用して、成王（＝周の王）は周公と卲公を重用した。そして刑罰は設けても適用しないで、兵力は留めおきて動かさないのは、多くの賢人を重用しているからである。桓公が管仲を重用したのは（規模が）小さいといえる。だから諸侯の長にはなったが、王者にはなれなかった。したがって孔子が管仲の器が小さいと言ったのは、思うに（管仲が）桓公に出会ったのをほめたたえてはいるが、それによって（桓公を）王者にならせることができなかったのを残念に思ったのであろう。賢明な主君の場合に至ってはそうではなく、登用のしかた（の規模）が大きいのである。『詩経』で言うところの、「優れた人物が多くそろっている」（状態であり）、文王が安泰であったのは、こういうことを言っているのである。

三

太古（＝ここでは堯・舜の時代）の天下を治める策として、朝廷には（王朝に対して）善政の提言を書きこむ旗と、批判を書きこむ板とがあり、統治の道を開いて諫める者を招く手段である。現在、法に（政治の）誹謗やあやしいつくりごとを言いふらすの（を罰する）罪があり、これが、人民たちが心情を尽くして言おうとするのを完全にやめさせ、そして皇帝はそのため過失を聞くことができなくなるのである。いったいどうやって遠方のかしこくて善良な人を招くことができるのだろうか、

いや、できない。さあ、これ〔＝誹謗妖言の罪〕を廃止せよ。